

構造改革特別区域計画

1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

五島市

2 構造改革特別区域の名称

五島市奈留地区小中高一貫教育特区

3 構造改革特別区域の範囲

五島市の区域の一部（奈留小・船廻小・奈留中校区）

4 構造改革特別区域の特性

(1) 五島市奈留地区が有する特徴

同地区は、平成の合併により平成16年8月1日、五島市となった。奈留島は長崎県の西方、五島列島のほぼ中央に位置し、五島市福江島からおよそ17kmの距離にある。起伏ある地形と入り組んだ海岸線は天然の良港を形成し、巻網漁業を中心とした水産業が基幹産業となっている。

しかし、近年の水産業の不振、少子高齢化によって、昭和32年の町制施行当時約9,000人いた人口は、現在、約3,500人にまで激減している。

このような厳しい環境の中ではあるが、島の人々は互いのつながりを大切にしながら、島民あげて島の活性化に努めている。

(2) 学校教育分野の特徴等

同地区は、町制施行当時から「教育の町」を自認してきた。当時の行政はもちろん、島内の学校に勤務する教師集団は、責任とプライドをもって奈留町の子どもたちの教育に携わってきた。また、学校と保護者・地域との信頼関係も厚く、地域には子どもを温かく見守り、学校と一体となって育もうとする教育風土がある。

現在、本地区には小学校が2校（平成19年度に統合予定）、中学校と高校が各1校ある。児童生徒は、いたって純朴であり親和的な学校生活を送っているが、少子化の進行により、平成20年度以降は小学校第1学年から高校第3学年までの全学年が単学級となる。

五島市立奈留中学校と長崎県立奈留高等学校は、平成13年度から連携型の中高一貫教育を実践してきた。今日に至るまで、次のような指定研究を継続推進してきている。

- ・昭和58～60年度 中高連携による学習指導法についての研究（県教委）
- ・平成7～8年度 中高連携教育推進調査研究校（県教委）
- ・平成9～10年度 「しま」振興若者定着事業に伴う中高連携教育推進校（県教委）
- ・平成10～12年度 中高一貫教育実践研究（文部省）
- ・平成13～18年度 中高一貫教育開発指定校（文部科学省）

(3) 連携型中高一貫教育の本格実施（平成13年度から）

この中で、具体的に次のような取り組みを行ってきた。

学力充実のための6年間を見通した学習指導の充実

- ・相互乗り入れ授業
- ・6年間を一貫したシラバスの活用
- ・中学校第3学年対象の基礎学力定着度調査
- ・公開授業をととしての研修交流
- ・郷土学習「奈留・実践」の系統的指導

なお、公開授業をととしての研修交流，朝の読書，各種検定試験（漢検・英検）の合同受検などは，平成13年度以降，小学校も加えて実施してきた。

異年齢集団活動の推進

- ・中高合同行事（ペーロン大会・体育大会・百人一首大会）の実施
- ・中学校第3学年と高1による体育の合同選択授業
- ・合同部活動

6年間の一貫した進路指導，生活指導

- ・中高合同進路指導主事会
- ・中学校第2・第3学年対象の高校進路指導主事による講話
- ・中学校第3学年対象の高校生面接指導見学
- ・中学校第3学年の高校生合格体験発表会への参加
- ・毎金曜日の中高生徒指導主事会
- ・夏季休業中の小中高合同夜間巡視

奈留地区小中高一貫教育は，これまでの中高一貫教育のうえに小学校を加えて12年間を見通した教育計画として再構成し，少子過疎化に伴う児童生徒数減及び学校規模の縮小といった教育活動上の制約を克服するための有効な方策として平成17年度から研究協議を進め，教育特区の申請が認定されれば平成19年度に一部試行，平成20年度から本格実施の予定である。

5 構造改革特別区域計画の意義

本地区では，小学校第1学年から高校第3学年までの12年間を「4・3・5」のまとまりに区分して教育課程を編成する。「4」（小学校第1学年～第4学年）を前期教育，「3」（小学校第5学年～中学校第1学年）を中期教育，「5」（中学校第2学年～高校第3学年）を後期教育と位置づけ，中高一貫教育の成果の継承発展と課題の克服を志向しつつ，新たに小中高一貫教育の充実を目指す。

小学校第1学年～第6学年に「英語科」を新設し，生きた英語学習，国際社会に対応できるコミュニケーション能力の基礎を育成するとともに，英語検定の積極的な受検を促進していく。

さらに，中期教育のうち，小学校第5・第6学年に一部教科担任制を取り入れる。

また，「特別活動」と「総合的な学習の時間」を統合して標準授業時数を減じ，「奈留・実践」を新設。「ふるさと」「かがやき」「あすなる」の3分野に再編するとともに，小中高相互の乗り入れ授業，TT（チームティーチング），少人数指導，さらには合同行事や合同部活動などの異年齢集団活動，地域の人材の活用を積極的に図る。（減じた時数は国語，算数・数学，中学校英語に上乘せする）

以上のことから，次のような教育的効果が期待できると考える。

（1）教育水準の維持・学力の向上

少子過疎化に伴う生徒数の減少，平成20年度以降の小学校第1学年から高校第3学年までの単学級化，学校規模の縮小に伴う教員数の減少等によって懸念される教育水準の低下を防ぎ，学力の充実向上を図ることができる。また，12年間を見通した教育課程を編成することによって，小中高における学習内容の重点指導項目を整理し，効率的な学習指導ができるようになる。

（2）円滑な校種間の接続

「4・3・5」の区分で教育課程を編成することにより、校種間の円滑な接続が可能となる。すなわち、小学校への英語科の導入、算数・数学における具体的思考から抽象的思考への移行等、校種が変わり学習内容が難化することによる学習上の児童生徒のつまずきを緩和することができる。

(3) 個に応じた細やかな指導

学年のまとまりを短期に設定することによって、つまずきを見つけた時、溯って直接指導するフィードバックが容易になる。前期・中期で細かな指導が実施されることにより、後期教育の成果に期待がもてる。

また、小中高相互の乗り入れ授業、TT、少人数指導、さらには小学校高学年における一部教科担任制の導入によって、免許外指導に頼らない専門教師による直接指導や個々の児童生徒の状況に応じたきめ細やかな指導が可能となり、基礎学力の定着・向上が期待できる。

さらに、小中高の教員が連携・協調して12年間の継続指導を行うことによって、一人ひとりの児童生徒の成長過程や個性を把握することができ、一貫した指導体制のもとで個に応じた細やかな支援ができる。そのことによって、100%の学力保障・進路保障を目指す取り組みや児童生徒の深い理解に基づいた進路指導、生活指導等の生き方指導が可能となる。

(4) 態度面の成長

各期の最高学年に、態度面における成長が期待できることから、特に前期・中期教育において身近な最高学年の態度に接することができ、一味違う新鮮さやあこがれをもつであろうと推測される。中学2年生にとっては、高校3年生の進路実現を目指す真剣な学習態度や生活態度は、生きた進路指導になると思われる。

(5) 社会性や豊かな人間性の育成

異年齢集団活動をとおして、社会性や豊かな人間性、リーダーシップの育成に効果を上げることが期待できる。

また、地域の人材の活用、今後さらなる少子化の進行に伴う町の行事との合同化を図ることによって、地域と学校とが一体化した教育環境の中で、たくましい児童生徒の育成が期待できる。

(6) 郷土意識の深まりと将来に対する主体的な関わり

「特別活動」「総合的な学習の時間」の統合再編による郷土学習・進路学習によって、郷土に対する理解や問題意識、自分の将来に対する児童生徒の自主的・主体的態度を育成する指導が可能となる。

6 構造改革特別区域計画の目標

(1) 基本的な方針

奈留地区における小中高一貫教育の基本方針を次のように設定した。

「奈留の子どもは奈留で育てて社会に送り出す」という共通認識に立って、小学校・中学校と高校とが同じ教育観のもとで連続性・系統性のある教育活動を推進し、確かな学力と豊かな人間性を育て地域から信頼される学校づくりに努めるとともに、郷土を愛し、国家や国際社会に貢献できるたくましい人材を育成する。

さらに、小中高一貫教育としての教育目標を次のように設定した。

自ら学び、自ら生き方を切り拓き、夢を実現できる児童生徒の育成を図る。

「自ら学び」は主として前期教育の、「自ら生き方を切り拓き」は主として中期教育の、「夢を実現できる」は主として後期教育の目標をそれぞれ端的に表すものとして意義づけている。12年間を通して、主体的にたくましく自己実現を果たすことのできる児童生徒の育成を目指すものである。

この中で、学力向上と、社会力（豊かな心とたくましさ）の育成を2本の柱として目標に掲げた。

(2) 各期の教育目標

学力向上

前期	基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。
中期	基礎基本の習熟を図り、問題意識を持って学ぶ姿勢を身に付けさせる。
後期	基礎基本を応用して、自ら課題を設定し、自ら解決する深い学びの力を養わせる。

社会力（豊かな心とたくましさ）の育成

前期	学校生活や集団生活への融和を図り、協調性を身に付けさせる。 ----- 基本的な生活習慣を身に付け、将来の社会生活への基礎を培わせる。
中期	集団の多様な人間との交流の中で、進んで体験を重ね豊かな情操を育ませる。 ----- 社会や世界について広く学習し、職業や人間の様々な生き方を学ばせる。
後期	----- 自己を見つめ、地域や社会の一員としての自覚を深めさせる。 ----- 自己理解を深め、将来に向けて目標の設定をするとともに、個性や能力を磨いて主体的・意欲的に自己の夢の実現を果たしていくたくましさを身に付けさせる。

(3) 目標達成のための具体的方策

学力向上の取り組み

- ・ 国際社会に対応できる英語力、コミュニケーション能力を育成するため、小学校第1学年から第6学年に「英語科」を新設する。また、中学校第1～第3学年の英語を増時間する。
- ・ 基本教科の国語、算数・数学を増時間して基礎学力の充実・向上を図る。
- ・ 小中高の教員の研修交流を推進するとともに、小学校第5・第6学年に一部教科担任制を取り入れ、中高教員の専門性を生かした基礎学力の充実を図る。
- ・ 小学校第6学年の「英語科」においては、平成20年度4月から中学校第1学年の教科書を早期使用する。また、平成21年4月から中学校第1・第2学年においても順次上学年の教科書を早期使用する。

社会力（豊かな心やたくましさ）育成の取り組み

「特別活動」及び「総合的な学習の時間」を統合して「奈留・実践」を新設し、

次の3分野に再編して、前期・中期・後期のそれぞれの発達段階に応じた連続性・系統性のある教育活動を行う。異年齢集団活動，児童生徒及び教員の交流，地域の人材の活用を積極的に推進する。

「ふるさと」「かがやき」「あすなる」

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

離島である本地区においては、少子化の進行によって平成20年度以降小学校第1学年から高校第3学年まで単学級となる。その中において、島の中に高校を存続させ、地区内の小中高に勤務するすべての教職員が連携して12年間一貫継続した指導に当たる。また、小学校第1学年～第6学年に「英語科」を新設する。

これらのことから、次のような経済的社会的な効果が期待されると考える。

(1) 地域の教育ネットワークの形成

小中高間での児童・生徒の交流や教職員の交流，カリキュラムの一貫化を通して小中高間の連携を強化することで，地域社会の期待に応え，信頼される学校づくりに邁進しようとする教師団の教育的情熱を結集する強い教育ネットワークを形成することができる。

(2) 地域の学校教育の活性化

小中高一貫教育の実践によって，地域の学校教育を活性化することができる。すなわち，保護者・地域の要望を吸い上げながら学校は広報活動を行うなど，双方向性を持った開かれた学校づくりが従来よりも進んだものとなる。

(3) 国際感覚の育成

小学校から英語科を導入することで，コミュニケーション能力が育成され，外国語や異文化への興味関心が高まり，国際感覚が養われていくとともに，中学校英語へのスムーズな移行が図られる。

また，英検取得生徒数の増加も見込まれる。

(4) 主体的な郷土意識の育成

自分の住む奈留町の歴史・文化を学び，奈留を愛し，奈留の未来を考える学習を系統的に行うことにより，少子化・人口減少が続く郷土の未来の在り方を自主的・主体的に考えることのできる人材を育成することができる。

(5) 社会の変化に対応できる人間の育成

12年間の一貫教育を通して，めまぐるしく変化するであろうこれからの社会を見据え，「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健康・体力の向上」の育成をめざした創意と特色ある教育課程を実践することによって，主体的・創造的に生きる人材を育てることができる。

(6) 保護者の負担軽減

保護者にとって，小学校から高校まで島内で学ばせることは教育費の負担軽減につながる。また，島内に高校が存在することによって，島としての奈留町の活力維持も期待できる。

8 特定事業の名称

802 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

819 構造改革特別区域研究開発学校における教科書の早期給与特例事業

- 9 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項
- (1) 「奈留地区小中高一貫教育推進委員会」の設置
本地区における小中高一貫教育の導入に向けて、目標や基本方針、実施細目を検討・協議するための研究組織として、五島市教育委員会教育長を会長、長崎県立奈留高等学校長を副会長に充て、平成17年6月10日に立ち上げた。
- (2) 教職員研修の充実
- ・ 小学校第1学年から「英語科」を導入するのに伴い、ALTの活用、TT、乗り入れ授業等に関する指導技術・指導法に関する研修や情報通信ネットワーク活用研修等、教職員研修を充実させる。
 - ・ 小中高一貫教育実践校を視察研修することにより、研修結果を共有する。
 - ・ 学力向上に関する小中高合同の話し合いをもち、指導の在り方について一貫性のある方向性の探求を継続する。
- (3) 中高一貫教育の実効の検証と発展
これまで実施してきた「連携型中高一貫教育」の実効を検証しつつ、新たな「小中高一貫教育」へと発展させるために、具体的な取り組みについての協議を深める。
- (4) 転入してくる児童生徒等に対する補充的な授業の実施
転入学時の課題となる、他校と教育課程が異なることに伴う授業内容等の差を補完するため、転入生に対して英語等に関する必要な授業を行う。
- (5) 内部評価及び外部評価の実施
平成19年度以降、毎年、年度末において事業に対する内部評価（教職員）及び外部評価（保護者・学校評議員等）を行い、次年度への取り組みに反映させる。

別紙(1)

1 特定事業の名称

802 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

五島市立奈留小学校，船廻小学校，奈留中学校

なお，船廻小学校は，平成19年4月1日，奈留小学校に統合予定

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

平成19年4月1日

4 特定事業の内容

(1) 事業に関与する主体

五島市

(2) 事業が行われる区域

五島市の区域の一部(奈留小・船廻小・奈留中校区)

(3) 事業の実施期間

平成19年4月1日から下記「5(2)」の教育課程の基準によらない部分が教育課程の基準になるように学習指導要領が改訂されるまで

平成20年度末に事業全体について評価，必要に応じて見直しを行う

(4) 事業により実現される行為や整備される設備等

小中高一貫教育として，4年・3年・5年のまとまりに配慮した12年間一貫の教育課程を編成する。

小学校第1学年から第6学年に「英語科」を新設する。

現行の「特別活動」及び「総合的な学習の時間」を統合・再編成して「奈留・実践」を導入する。

小学校第6学年の「英語科」では中学校第1学年の教科書を早期使用する。中学校第1・第2学年においても上学年の教科書を早期使用する。

現在の奈留中学校舎に前期および中期教育に該当する学年(小学校第1学年～中学校第1学年)を，現在の奈留高校舎に後期教育に該当する学年(中学校第2学年～高校第3学年)を収容して，2つの校舎で教育活動を行う。

奈留中学校の校舎は強度がやや弱体化しているが，当面，既存のものに一部改修を加えて使用する。今後，改築の予定である。

5 当該規制の特例措置の内容

(1) 取り組みの期間

認定日以降，平成19年4月から一部試行，20年度から本格実施の予定。

20年度末に事業全体についての見直しを行う。

(2) 教育課程の基準によらない部分

小学校第1学年から小学校第6学年に「英語科」を新設する(「総合的な学習の時間」を削減)

- ・ 小1～小4 年間各17時間
- ・ 小5及び小6 年間各30時間

小学校第1学年から中学校第3学年に「奈留・実践」を新設する(「特別活動」, 「総合的な学習の時間」を統合・再編)

- ・ 小1 年間34時間
- ・ 小2 年間35時間
- ・ 小3～中2 年間各88時間
- ・ 中3 年間123時間

次の各教科の時数増(「総合的な学習の時間」, 中学校第2学年の「選択教科」を削減)

・ 国語科(小学校第1学年から中学校第3学年まで)

- 小1 17時間, 小2 18時間,
- 小3・小4 25時間, 小5・小6 12時間,
- 中1 19時間, 中2・中3 12時間)

・ 算数・数学科(小学校第3学年から中学校第2学年まで)

- 小3・小4 10時間, 小5・小6 15時間,
- 中1 10時間, 中2 25時間

・ 英語科(中学校第1学年から第3学年まで)

- 中1 18時間, 中2・中3 30時間)

(3) 規制の特例措置の必要性

A 「英語科」(小学校第1学年～第6学年)

離島である本地区では異文化・異言語にふれる機会・手段は限られており, 児童生徒にとって学校(教育)に依存しているのが実情である。

そこで, 本地区の2校の小学校(平成19年度から1校に統合)では, 平成15年度から学級担任とALT(本島在住の唯一の外国人)及び中学校の英語教諭も乗り入れた3人体制のTTで, 小学校第1・第2学年においては教育課程枠外で, 小学校第3学年においては総合的な学習の時間の国際理解分野で, 英語科を実施してきた。学習内容は児童の身近にあるものを中心とした単語や挨拶等, ゲームを通してのくり返し学習が中心で「読み・書き」は扱わず, 「聞く」「話す」活動に重点を置いてきた。その結果, 「生きた英語」に触れることによって, 児童の英語学習に関する興味・関心が高まってきた。

しかし, 中学校入学後, 基礎学力検査の結果や児童・生徒の実態を見てみると, 基礎基本がなかなか定着せず, 学習到達度の個人差も大きいことは否定できない。

そこで, 12年間を通して一貫継続した系統的な指導を行うことで, 豊かな国際感覚を身につけさせたい。英語による自己表現力, 実践的なコミュニケーション能力の基礎, さらに, 後期教育において習熟度別, 進路別学習の充実を図ることで, 基礎基本の定着, 発展的学力の育成を目指したい。

B 「奈留・実践」(小学校第1学年～中学校第3学年)

年々過疎化・少子化が進行している奈留町で育つ児童・生徒は大半が将来奈留を離れて暮らすことになる。彼らがどこで生きることになっても、自分の出自に誇りをもち、自分らしさを失わず、周囲と協調しながら、堂々と前進して行くことのできる力の根っこを育て送り出したい。

そのために、これまで校種ごとに個々に行ってきた「特別活動」と「総合的な学習の時間」の内容を整理・統合し、長期的な視点で、段階的に児童・生徒の生きる力・能力の発達を促す、奈留地区の児童・生徒に相応しい独自の「奈留・実践」として開設することとした。時数については「特別活動」のすべてと「総合的な学習の時間」の一部を再編している。

「奈留・実践」において身に付けさせたいものは、「たくましさ」と「人間的な豊かさ」である。学習内容は、3分野で構成する。奈留の自然や文化を学ぶ「ふるさと」、集団や社会の一員としての自覚や実践力を高める「かがやき」、よりよい自らの在り方や人間としての生き方を探求し、各自の夢の実現を目指す「あすなる」の3つである。

また、3分野とも、

- ア 自分で考え、行動する体験学習や異年齢合同活動を多く取り入れる
 - イ 地域の講師，TTによる指導，グループ学習等，多彩な関わりを設定する
 - ウ 生活科で培った自分と「ひと，もの，こと」との関わりを生かしながら，社会・理科・道徳とも関連づける
- に配慮したものとした。学習内容の構成と概要は次の通りである。

	分 野	概 要
奈留・実践	ふるさと	ふるさと奈留の「ひと・もの・こと」について学習し理解する。 郷土を愛し、郷土の発展に貢献しようとする態度や郷里に対する誇りを醸成する。
	かがやき	基本的な生活習慣を身に付ける。 集団や社会の構成員である自覚を深める。 生活を充実・向上させ、心身ともに輝かせる。
	あすなる	正しい自己理解に基づいて、自分の生き方を探究する。 将来への夢と展望を持ってたくましく自己実現できる能力や態度を身に付ける。

(4) 計画初年度の教育課程の内容等

A 「英語科」(小学校第1学年～小学校第6学年)

カリキュラム編成のねらい

小学校第1学年から高校第3学年までの12年間を見通した指導カリキュラムを編成する。

前期(小学校第1～第4学年)では「書くこと」「読むこと」の指導は行わず、「聞く」活動、「話す」活動をとおして英語学習への興味・関心、意欲の喚起、国際理解の指導に重点を置く。

中期(小学校第5学年～中学校第1学年)では前期に学習した英語表現をもと

に「読む」「書く」活動を通して、文字と音声の関係や英文のルールを理解し、さらにコミュニケーション能力を高めていく。

後期（中学校第2学年～高校第3学年）では発展的なコミュニケーション能力の育成と個々の習熟度や進路に応じた学習指導をめざす。

小学校第6学年では中学校第1学年の教科書を早期使用することによって、中学校英語への円滑な接続を図る。中学校第1・第2学年においても、それぞれ上学年の内容の一部を前倒して学習させ、オーラル学習、習熟度別学習、進路別学習の充実を図る。

小学校英語科における教材は、自主教材を使用する。

指導計画

各期の到達目標 指導内容

前期	英語のリズム、表現などに触れ、言語、文化などに興味を持つとともに、英語を使って、進んでコミュニケーションを図ろうとする。
中期	英語に対する興味関心をさらに高め、英語の文字と音声の関係や英文のルールを習得し、英語を用いたコミュニケーションに慣れる。
後期	幅広い情報や考えを英語で理解したり表現する能力を高め、実践的なコミュニケーション能力を養うとともに、生徒の多様な進路に応じた実践的な英語力を身につけさせる。

期	学年	時間数	指導内容		授業形態・使用教材等	
			知識・理解・表現	国際理解		
前期	小1	17		・ゲームや歌などを通して英語のリズムに慣れ親しむ	・帯時間を利用 ・ALTとのTT ・自主教材	
	小2	17				
	小3	17	【聞くこと・話すこと】 ・ALTの生きた英語（強勢・リズム・イントネーションなど）を聞き、身近な英語や身振りなどの非言語手段を用いて答える ・話し手の意向などをおおむね理解する ・簡単な英文を聞き、答える	・外国の風俗・文化・習慣・行事に興味を持つ ALTにさまざまなトピック（文化・風俗・習慣など）を1時間に1つ紹介してもらう		・帯時間を利用 ・ALTとのTT ・自主教材
	小4	17				
中期	小5	30	【読むこと・書くこと】 ・アルファベットやローマ字を手がかりに簡単な単語を書く ・身近な単語の意味を考え理解しながら読む ・前期で学習した英文の内容を考え理解しながら、書いたり読んだりする ・英検5級の取得を視野に入れる	・外国の風俗・文化・習慣・行事に興味を持ち調べる 英語やALTとの関わりを通じて、世界の国々及び我が国の言葉や文化について関心を持ったり、調べたりする	・ALTとのTT ・自主教材	
	小6	30	・中1の内容の一部前倒し be動詞、簡単な一般動詞の疑問文・否定文等	社会科や総合的な学習と関連させる ・小中高合同インタナショナルデー（仮称）実施。		・ALTとのTT ・自主教材 ・中1の教

		<ul style="list-style-type: none"> ・英検 5 級の取得を目指す 	(研究発表, 英語劇, 歌, 暗唱, 弁論等)	科書使用	
中 1	123 (+ 18)	<ul style="list-style-type: none"> ・小 6 の内容の復習 ・中 2 の内容の一部前倒し 過去形・未来形等 ・英検 4 級の取得を目指す ・増時間でリーディング、リスニング、会話、異文化の学習など 	<ul style="list-style-type: none"> ・イングリッシュキャンプの実施(五島管内のALTの招致) (中 1 ~ 中 2) 	・ALT との TT	
中 2	135 (+ 30)	<p>《基礎力定着度調査》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中 1 の復習 ・中 3 の内容の一部前倒し 受動態・現在完了等 ・中高合同スプリングコンテストを実施 ・英検 3 級を視野に入れる ・増時間でリーディング、リスニング、会話、異文化の学習など 		・ALT との TT	
中 3	135 (+ 30)	<p>《アチ - プメントテスト(仮称)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中 2 の復習 ・高 1 の内容の前倒し 五文型・時制等 ・英検 3 級の取得を目指す ・増時間でリーディング、リスニング、会話、異文化の学習など また、基礎練習や発展練習 ・県立高校入試問題で全員が 8 割以上取れる力をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・イングリッシュキャンプの実施 (五島管内のALTの招致) (中 3 ~ 高 2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT との TT ・乗り入れ授業 ・習熟度授業 	
後 期	高 1	<p>進 学</p> <p>中学校の復習(1学期中に終了)</p> <p>英</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮定法を含めすべての文法事項を終了させる(2学期中) ・英単語 2000 語レベル ・リスニング 対策 ・速読対策を定期的に取り入れる ・英検準 2 級を視野に入れる <p>オーラルコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恐れずに ALT と会話ができる自信と学 	<p>就 職</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書レベルの英単語をしっかりとマスターさせる ・教科書の英文を声を出して読めるようにする ・基本的な英文法を理解させる (構文集の徹底) ・全員の英検 3 級の取得を目指す 	<p>オーラルコミュニケーションの授業を通して、語学力を高めると同時に(SHOW AND TELL, SPEECH, DEBATE を頻繁に取り入れることにより国際理解に努める)</p> <p>交換留学生との交流会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT との TT ・進路希望別授業 ・習熟度別授業

		力を養う。 ・リスニングとスピーキング能力の強化 (SHOW AND TELL, SPEECH, DEBATEを頻 繁に取り入れる) ・基本的な会話表現を理解する		
後 期	高2 175	英 ・2学期までに英 の教科書を終 了し、3学期か らリーディング の教科書に移行 する ・英単語 3000 語レ ベル ・リスニング対策 ・速読対策を定期 的に入れる。 ・英検準2級の取 得を目指す。成 績上位生徒には 2級を挑戦させ る オーラルコミュニケーション ・恐れずにALTと会話ができる自信と学 力を養う ・リスニングとスピーキング能力の強化 (SHOW AND TELL, SPEECH, DEBATE)を頻 繁に取り入れる ・基本的な会話表現を理解する	・公務員対策、S P I対策のための英 語を開始する ・就職試験で問われ る英単語力、文法 力の強化(構文集 の徹底) ・公務員試験で問わ れる長文読解力の 強化	・ALTとの TT ・進路希望 別クラス 編成
	高3 175	リーディング ・教科書を1学期 で終了させる ・2学期からセン ター試験対策を 行う ・英単語 4000 ~ 5000 語レベル センター試験受験 者は160点以上 取れる力をつけさ せる	英語 ・教科書を1学期で 終了させる ・2学期から公務員、 就職試験(S P I) 対策 公務員試験、就職 試験に合格できる 力をつけさせる。	・ALTとの TT ・進路希望 別クラス 編成

小学校第1～第4学年の帯授業については、小学校における「業間」の時間などを
利用することにより15分程度に分割し、コマ数を増やして英語に触れる機会を多く
設け、教育効果を高めたい。

(4) 評価
評価観点

- A コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- B 理解・表現
- C 国際理解

評価規準

学年 評価観点	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
A	英語を使って楽しく活動しようとしている。 進んでコミュニケーションを図ろうとしている。		英語を使ったコミュニケーション活動を先生やクラスの友達と積極的に楽しんでいる。			
B	英語のリズムや音声に慣れる。		英語を聞いたり話したりすることに慣れる 相手の伝えたいことをおおまかに理解する。		アルファベットや文字のかたまりを手がかりに簡単な英語を理解している。 簡単な英文のルールを理解している 簡単な単語や文を表記することができる。	
C	英語の歌やゲームなど外国の文化に親しんでいる。		外国の生活や文化、言葉に興味を持っている。		日本の生活や文化などの比較により、いろいろな価値観やもの見方があることを知る。	

* 観点別評価は、段階的に観点項目を増やし、精度を上げながら小学校第1学年から小学校第6学年まで行う。

B 「奈留・実践」(小学校第1学年～中学校第3学年)について

ふるさと

各期の到達目標

前期	<p>ふるさと奈留町の伝統文化を体験させ、そのよさや意義を学ばせる。 自分が生まれ、育ってきたふるさとに対する興味・関心を広く喚起し、様々な観点から問題意識を持たせる。</p>
中期	<p>ふるさと奈留町の伝統文化を体験させ、そのよさや意義を学ばせるとともに、継承していこうとする態度を育成する。 ふるさと奈留町に対する問題意識・課題意識を明確にさせ、体験学習や調べ学習を通して問題探求の仕方を身に付けさせるとともに、自分のアイデンティティーや生き方、郷土貢献の在り方を考えさせる。</p>
後期	<p>ふるさと奈留町の伝統文化を体験させ、そのよさや意義、地域の歴史・文化の特性を考察する態度を育成する。 日本や世界におけるふるさと奈留町の特徴を客観的にとらえ、郷土の発展・向上に努める態度を育成する。 また、地域の活動に進んで参加し、地域社会の一員としての自覚を深め、郷土を愛し、郷土に誇りを持って生きる姿勢を身に付けさせる。</p>

指導内容

期	学年	指導内容	授業形態
前期	小3	<p>伝統文化の体験と継承「鳴神太鼓」 ふるさと奈留町にはどのような特徴があるか、様々な観点から調べさせる。(地理的特徴や自然、生活、伝統文化、言い伝え等) ・ 学習テーマを広く設定し各児童の興味・関心を喚起する。 ・ テーマの設定や学習方法については教師が例示するなど適切に助言・支援を行う。学習を進めるに当たっては、体験学習・調べ学習を中心とする。</p>	校外学習 TT グループ学習
	小4	<p>・ 児童の持つ素朴な疑問や気づきを重んじる。 ボランティア活動(地域清掃・福祉活動)。</p>	
中期	小5	<p>伝統文化の体験と継承「ペーロン」 奈留町の持つ特徴、問題や課題について探求し、自分とふるさととの関わりについて考えさせるとともに、地域貢献の在り方を考えさせる。 (奈留町の「自然と環境問題」「歴史・文化」「生活・福祉」「産業と企業」「水産教室」等)</p>	異学年あるいは各期のまとまりによる合同学習 地域人材の活用
	小6	<p>・ 調べ方、探求の方法やまとめ方を学習させる。 ・ 図書館の活用、インターネットの利用の仕方も学ばせる。 ・ 職場見学、職場訪問等、体験学習を積極的に取り入れる。 ボランティア活動(地域清掃・福祉活動)。</p>	
	中1		
後期	中2	<p>伝統文化の体験と継承「ペーロン」「奈留町音頭(女子)」 地域の行事に積極的に参加させて郷土理解を深め、自分の生き方を考察する姿勢を身に付けさせる。 (郷土行事「文化祭」「体育祭」「ロードレース大会」「夏祭り等」) 郷土を客観的にとらえる視点から調査・研究をまとめ、レポートを作成させる(中学校第3学年:卒業研究)</p>	
	中3	<p>・ テーマは中期で探求した題材から選択させ、深化させるように指導する。 ・ 中2の学校行事である修学旅行における研修成果を教材として、日本の中の奈留という視点を持たせる。 ・ 効果的なプレゼンテーションの方法も学習させる。 ボランティア活動(地域清掃・福祉活動)。</p>	
	高1 ~ 高3	<p>伝統文化の体験と継承「ペーロン」「奈留町音頭(女子)」 郷土料理(ただし、家庭科の授業で実施) ボランティア活動(地域清掃・福祉活動)。</p>	

か が や き

各期の到達目標

前期	学級や学校の一員としての自覚を深め、基本的な生活習慣や社会性の基礎を育成する。
中期	学校や社会における自己の役割を理解させ、集団生活の中で自分を生かしながら、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成する。
後期	学校や社会の一員として、積極的に社会に参画しようとする実践的な態度を育てるとともに、将来の自己の生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を育成する。

指導内容

期	学年	指 導 内 容							
		学級や学校の生活の充実と向上に関すること	日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること						
			希望や目標を持って生きる態度	基本的な生活習慣の形成	望ましい人間関係の育成	学校図書館の利用	心身ともに健康で安全な生活態度の育成	学校給食と望ましい食習慣の形成	その他
前期	小1	<ul style="list-style-type: none"> 学級の係を決めよう 学級の目標を決めよう 会を開こう 学級の問題を話し合おう 	<ul style="list-style-type: none"> 学期の反省 夏休みを振り返って もうすぐ2年生 	<ul style="list-style-type: none"> トイレと手洗い 上手な掃除 雨の日の遊び 休みの過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい歓迎遠足にしよう 6年生を送る会 	<ul style="list-style-type: none"> 本と友達になろう 	<ul style="list-style-type: none"> 学校のきまり 登下校のしかた 健康診断の受け方 交通ルール 歯と健康 目の健康 かぜの予防 	<ul style="list-style-type: none"> 給食のきまり 給食週間の取組み 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会を成功させよう
	小2		<ul style="list-style-type: none"> 学期の反省 夏休みを振り返って もうすぐ3年生 	<ul style="list-style-type: none"> 掃除の仕方 雨の日の遊び 休みの過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい歓迎遠足にしよう 気持ちのよい挨拶 6年生を送る会 	<ul style="list-style-type: none"> 本と友達になろう 	<ul style="list-style-type: none"> 学校のきまり 登下校の安全 健康診断の受け方 交通ルール 歯と健康 目の健康 かぜの予防 		
	小3		<ul style="list-style-type: none"> 学期の反省 もうすぐ4年生 	<ul style="list-style-type: none"> 雨の日の遊び 休みの過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい歓迎遠足にしよう 6年生を送る会 	<ul style="list-style-type: none"> 読書に親しむ方法を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> 歯と健康 目の健康 かぜの予防 		
	小4		<ul style="list-style-type: none"> 学期の反省 もうすぐ5年生 	<ul style="list-style-type: none"> 雨の日の遊び 休みの過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい歓迎遠足にしよう 6年生を送る会 	<ul style="list-style-type: none"> 読書に親しむ方法を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> 歯と健康 目の健康 かぜの予防 		
中期	小5	<ul style="list-style-type: none"> 学級の係を決めよう 学級の目標を決めよう 会を開こう 学級の問題を話し合おう 	<ul style="list-style-type: none"> 学期の反省 1年間の反省 家庭学習の進め方を考えよう もうすぐ最高学年 	<ul style="list-style-type: none"> 休みの過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい歓迎遠足にしよう 6年生を送る会 	<ul style="list-style-type: none"> 読書に親しむ方法を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> 歯と健康(歯肉炎) 目の健康(環境と食生活) かぜの予防(インフルエンザ) 	<ul style="list-style-type: none"> 給食のきまり 給食週間の取組み 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会を成功させよう
	小6	<ul style="list-style-type: none"> 学級の係を決めよう 学級の目標を決めよう 会を開こう 学級の問題を話し合おう 感謝の気持ちを表そう 	<ul style="list-style-type: none"> 学期の反省 家庭学習の進め方を考えよう 卒業式に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> 休みの過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい歓迎遠足にしよう 6年生を送る会 	<ul style="list-style-type: none"> 読書に親しむ方法を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> 歯と健康(歯肉炎) 目の健康(環境と食生活) 	<ul style="list-style-type: none"> 給食のきまり 給食週間の取組み 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会を成功させよう 修学旅行の計画 卒業文集
			<p>学級や学校の生活の充実と向上に関すること (高1からは「ホームルームや学校の生活の充実と向上に関すること」となる)</p>	<p>個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること</p>	<p>学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること (「奈留・実践」の「あすなる」と連動させて学習させる)</p>				
	中1	<ul style="list-style-type: none"> 中学生生活を始めよう 学級の組織と自分の役割 話し合い活動と学級づくり 学級生活を見つめよう もうすぐ2年生 	<ul style="list-style-type: none"> 食べ方・暮らし方で健康に 自分を知る、友達を知る コミュニケーションを豊かに 将来の人生を脅かすもの 体育大会は何のためにある? 悩みや不安は誰にでもある 自分を見つめ、特長を知る 学級の外へ飛び出して活動しよう あなたは「中学生」ですか? 女子と男子、ちがう?同じ? 		<ul style="list-style-type: none"> 中学校では何を学ぶのか なぜ、今学ぶのだろう 学習の達人になろう 長い休みに自分の力を伸ばそう 夢や希望を大切にしよう 将来の設計と進路の選択 				

期	学年	学級や学校の生活の充実と向上に関すること (高1からは「ホームルームや学校の生活の充実と向上に関すること」となる)	個人及び社会の一員としての在り方, 健康や安全に関すること	学業生活の充実, 将来の生き方と進路の適切な選択に関すること (「奈留・実践」の「あすなる」と連動させて学習させる)
後期	中2	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の自分と2年生の自分 ・みんなで伸びる学級を ・仕事への挑戦 ・中学校生活ど真ん中 ・学級の生活を見直そう ・最上級生に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしく生きる ・なぜ人は働くのだろう ・健康な毎日を送るために ・安全な生活と自分 ・休日から広がる新しい世界 ・自分らしさを生かそう ・人間関係を大切に ・社会に生きる一員として ・ストレスと上手につきあおう ・地球に生きる一員として 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択教科と奈留学 ・なぜ人は学ぶのだろう ・自分の学習を振り返ろう ・自分の学びを考えよう ・自分の進路を考えるために ・自分が生きる自分の道 ・自分の将来をデザインしよう
	中3	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の見通しを持つ ・学級生活を見直そう ・学級活動を見直そう ・思い出に残る行事にしよう ・思い出に残る学級にしよう ・中学時代のまとめをしよう ・夢に向かってはばたこう 	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した学級生活を送ろう ・生き方について考えよう ・心身ともに健やかに ・長期休業を生かそう ・ふれあいから学ぶ新しい自分 ・高度情報通信社会に生きる ・地域や社会とともに ・社会の一員として生きる ・国際社会に生きるあなたに ・悩みと上手につきあおう ・感謝の気持ちを表そう 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望の実現に向けて ・進路を考えよう ・進路の最終決定をしよう ・自分を信じて ・選択教科を生かそう ・進路の選択に向けて ・自分の道を切り拓こう
	高1	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足 ・高総体壮行式 ・高総体報告会 ・生徒総会 ・中高合同ペーロン大会 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>高1・2のみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技大会 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・クレベリン検査 ・課題研究 ・課題研究発表準備 ・薬物乱用防止講話 ・同和教育 ・交通講話 ・課題研究発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸調査・家庭学習調査 ・自己分析・職業研究準備 ・職業研究 ・進路講演会 ・進路希望別ガイダンス ・ライフプラン発表会 ・小論文学習 ・合格体験発表会
	高2	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭 ・体育大会準備 ・体育大会予行練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・同和教育 ・課題研究 ・課題研究ガイダンス ・研究活動計画書作成 ・薬物乱用防止講話 ・交通講話 ・研究課題設定 ・しおりの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸調査・家庭学習調査 ・進路講演会 ・進路希望別ガイダンス ・職業・学部学科研究 ・小論文学習 ・合格体験発表会
	高3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員立会演説会 ・駅伝・マラソン大会 ・中高合同百人一首大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・同和教育 ・課題研究 ・課題研究発表会 ・薬物乱用防止講話 ・交通講話 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸調査・家庭学習調査 ・入試・入社試験研究 ・入試・入社試験研究まとめ ・小論文学習 ・進路講演会 ・自己分析・目標設定 ・ディベート ・特別講座

あ す な る

各期の到達目標

前期	自分自身について考えたり、身の回りの人の気持ちを考えたりすることを通して感謝する気持ちやよりよく生きようとする力を育成する。
中期	社会を広く見つけ、様々な人間の生き方を学ぶことを通して、これからの自分の生き方や将来について考え、自己実現を果たそうとする力を育成する。
後期	職業への理解を深め、自己理解をもとに、進路の計画と選択ができるようにする。 将来の生活において、社会的、職業的な自己実現ができるようにする。 自分の適性に合った進路を主体的に選択し、自己実現を図っていくための能力や態度を育成する。

指導内容

期	学年	指導内容	授業形態
前期	小3	自分のよさや、友達によさに気づくことなどを通して、自分について考えさせる。 ・ 自分のよさや友達によさをカードに書いて発表し合う。 ・ よさを発見するエクササイズを行う。 ・ 生活や学習の中でよさを生かす計画を立て、実践する。	校外学習 TT ゲストティーチャー
	小4	地域の方の生き方にふれることで、感謝の気持ちを持ち、夢や希望をもって生きようとする態度を育成する。 ・ 日頃からお世話になっている方と話をしたり、一緒に活動したりする。 ・ 感謝の気持ちを表す方法を考え、伝えるように実践する。	グループ学習
中期	小5	施設・職場見学等を通し、働くことの大切さや苦勞を理解するとともに、体験したことと生活や職業との関連を考えることができるようにする。 ・ 奈留町の施設や職場を見学したり、調べたりする。 ・ 見学したり体験したりしたことをまとめ、発表する。	
	小6	いろいろな人の生き方にふれ、社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さがわかり、自分の将来について考えることができるようにする。 ・ 奈留町以外の施設や職場を見学したり調べたりする。 ・ 見学したり体験したりしたことをまとめ、発表する。	
	中1	職業適性検査や職業講話などを通して進路への関心を高め、将来への志望を持つことができるようにする。 ・ 職業適性検査をしたり、職業講話を聴いたりする。 ・ 自分の夢に向かって具体的な目標を立て、その目標に対して日々実践する。	
後期	中2	職場体験学習を通して、進路の適性を検討し、将来への展望を確かなものにする。 ・ 職場体験学習を行う。 ・ 職場体験の経験をもとに、働くことの意味を考え、発表する。	
	中3	奈留高校体験入学や先輩の合格体験発表等を参考に進路を選択することができるようにする。 「あすなる」の総まとめとして、よりよい進路や生き方を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解させ、課題レポートを作成させる。 ・ 奈留高校体験入学を行ったり、先輩の体験発表を聴いたりする。 ・ 自分の成長の跡を確認し、「あすなる」の学習でこれまで身に付けてきた知識や技能を生かして、課題レポートを作成する。	
	高1	様々な職業を知り、職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路目標を定めることができるように指導する。 ・ 自分の将来の職業に関する資格や、そのための知識、技能、進学先などについて、具体的に調べる。	
	高2	卒業後の進路や職業の動向について、多面的に情報を集め、希望進路に関する研究を深めさせる。 ・ 卒業後の具体的な進路について、自分の特性を考慮しながら、必要な情報を収集する。	
	高3	将来設計、進路計画の見直し検討を行い、希望進路を実現させる。 ・ 将来設計、進路計画の見直し・検討を行う。	

教育課程表（小中学校の授業時数）

学 年	前 期						中 期			後 期		
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	中2	中3	
国 語	289	298	260	260	192	187	159	117	117	+12	+12	
社 会			70	85	90	100	105	105	105	0	85	
算数・数学	114	155	160	160	165	165	115	130	130	+25	105	
生 活	102	105										
理 科			70	90	95	95	105	105	105	0	80	
音 楽	68	70	60	60	50	50	45	35	35	0	35	
図工・美術	68	70	60	60	50	50	45	35	35	0	35	
保健体育	90	90	90	90	90	90	90	90	90	0	90	
技術・家庭					60	55	70	70	70	0	35	
英 語	17	17	17	17	30	30	123	135	135	+30	+30	
選 択								35	35	-15	105	
道 徳	34	35	35	35	35	35	35	35	35	0	35	
奈良・実践	34	35	88	88	88	88	88	88	88	+88	123	
特別活動	0	-34	0	-35	0	-35	0	0	0	-35	0	
総合的な学習の時間			0	-105	0	-110	0	0	0	-105	0	
合 計	816	875	910	945	945	945	980	980	980	0	980	

(5) 現行の教育課程から削除した部分について

小学校第1学年から中学校第3学年までの「特別活動」(全時間削除)は、その内容を整理・再編して、発展的に「奈留・実践」で学習させることができると考えている。

小学校第3学年から中学校第3学年までの「総合的な学習の時間」(全時間削除)は、その内容を整理・再編して、発展的に「奈留・実践」で学習させることができると考えている。

小学校第3学年から中学校第3学年までの「総合的な学習の時間」(全時間削除)は、その一部(中学校第2学年においては「選択教科」15時間削除も含む)を「国語」、「算数・数学」、「英語」に増時間する。その分については、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができるように探求活動に力点を置いて、学習指導要領における「総合的な学習の時間」のねらいを実現できるように実施する。

中学校第2学年の「選択教科」(15時間削除)は、「国語」、「数学」、「英語」の増時間の一部として活用する。「選択教科」の持つ補充・発展的な学習としての趣旨はこのことで達成できると考えている。

「奈留・実践」では、12年間を見通した系統的な計画により学年の重複をなくし、効率的な積み上げができるため、設定時数内でも「特別活動」(全時間削除)及び「総合的な学習の時間」(全時間削除)を十分に補完できると考えている。

学年	削減する時数	統合・再編後の時数
小3・小4	特別活動(- 35h)	奈留・実践(88h)
	総合学習(- 105h)	英語(17h), 国語(25h), 算数(10h)
	計(- 140h)	計(+ 140h)
小5・小6	特別活動(- 35h)	奈留・実践(88h)
	総合学習(- 110h)	英語(30h), 国語(12h), 算数(15h)
	計(- 145h)	計(+ 145h)
中 1	特別活動(- 35h)	奈留・実践(88h)
	総合学習(- 100h)	英語(18h), 国語(19h), 数学(10h)
	計(- 135h)	計(+ 135h)
中 2	特別活動(- 35h)	奈留・実践(88h)
	総合学習(- 105h)	英語(30h), 国語(12h), 数学(25h)
	選択教科(- 15h)	
計(- 155h)	計(+ 155h)	
中 3	特別活動(- 35h)	奈留・実践(123h)
	総合学習(- 130h)	英語(30h), 国語(12h)
	計(- 165h)	計(+ 165h)

(6) 本計画と憲法, 教育基本法, 学校教育法の示す学校教育の目標との関係について
本計画での自己理解や生き方探求, 自然や人々との豊かな関わり・体験を通して「生きる力」を育成することは, 教育の目的である人格の完成, 自主的精神に満ちた心身ともに健康な国民の育成等を示した教育基本法第1条に適合すると考える。

さらに、児童生徒の心身の発達段階に応じた教育内容であり本地区の実情に配慮したきめ細かな指導と継続的な指導により、郷土学習や進路選択能力の育成を目指している。このことは、学校教育法第17条、同第18条、同第39号、同第36条に示された小・中学校の教育目標に合致している。

なお、本計画を実施した場合においても、日本国憲法第26条や教育基本法第3条で保障したに等しく、能力に応じる教育を受けることは確保されており、法的にも適合している。

別紙(2)

1 特定事業の名称

819 構造改革特別区域研究開発学校における教科書の早期給与特例事業

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

五島市立奈留小学校，船廻小学校，奈留中学校

なお，船廻小学校は，平成19年4月1日，奈留小学校に統合予定

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

平成20年4月1日

4 特定事業の内容

(1) 事業に関与する主体

五島市

(2) 事業が行われる区域

五島市の区域の一部(奈留小，船廻小，奈留中鉦区)

(3) 事業の実施期間

平成20年度4月から下記「5(2)教育課程の基準によらない部分」が教育課程の基準になるように学習指導要領が改訂されるまで

(4) 事業により実現される行為や整備される設備等

特例措置により小学校に設置する英語科において，小学校第6学年から中学校第1学年の教科書を使用する。

(なお，21年度以降，中1・中2についても上学年の教科書を使用し，最終的に小6から中2においてそれぞれ次学年の教科書を早期使用する予定である。)

5 当該規制の特例措置の内容

(1) 取り組みの期間

平成20年度4月から実施し，同年度末に事業全体について評価，見直しを行う。

(2) 教育課程の基準によらない部分

小学校第1学年から小学校第6学年に「英語科」を新設する(「総合的な学習の時間」を削減)

・ 小1～小4 年間各17時間

・ 小5及び小6 年間各30時間

小学校第1学年から中学校第3学年に「奈留・実践」を新設する(「特別活動」「総合的な学習の時間」を統合・再編)

・ 小1 年間34時間

・ 小2 年間35時間

- ・ 小3～中2 年間各88時間
- ・ 中3 年間123時間

次の各教科の時数増（「総合的な学習の時間」、中学校第2学年の「選択教科」を削減）

- ・ 国語科（小学校第1学年から中学校第3学年まで）
 - 小1 17時間， 小2 18時間，
 - 小3・小4 25時間， 小5・小6 12時間，
 - 中1 19時間， 中2・中3 12時間
- ・ 算数・数学科（小学校第3学年から中学校第2学年まで）
 - 小3・小4 10時間， 小5・小6 15時間，
 - 中1 10時間， 中2 25時間
- ・ 英語科（中学校第1学年から第3学年まで）
 - 中1 18時間， 中2・中3 30時間

(3) 教科書給与特例の部分

小学校第6学年で中学校第1学年の教科書を使用することにより，中学校英語への円滑な接続を図る。

また，小学校第6学年から中学校第2学年において上学年の教科書を早期使用することにより，次の実効を目指す。

- ア 児童生徒の学習に向かう意識を高める。
- イ 自己の課題に主体的に取り組む。
- ウ 異文化の理解を深め，広く柔軟な考え方を醸成する。

移行する内容

ア 小学校第6学年に，中学校第1学年の教科書を使い，基礎基本となる be 動詞，日常的に頻出する一般動詞，数の聞き方を取り扱う。

イ 中学校第1学年に，中学校第2学年の教科書を使い，一般動詞の過去形，be 動詞の過去形，過去進行形，未来形を取り扱う。

ウ 中学校第2学年に，中学校第3学年の教科書を使い，受動態，現在完了形を取り扱う。

* イについては21年度以降，ウについては22年度以降

上学年の教科書の使用について

小学校第6学年に中学校第1学年の教科書を，中学校第1学年に中学校第2学年の教科書を，中学校第2学年に中学校第3学年の教科書を早期給与する。

なお，各学年で使用する教科書は下表の通りである。

学年	年間授業時数	上学年から移行する主な内容	使用する教科書
小6	30	be 動詞（現在） be 動詞（疑問文・否定文・答え方） 一般動詞(have ,like ,play ,	中学校第1学年用教科書

		practice , want) 数の聞き方 (How many ~ ?)	
中 1	1 2 3	一般動詞 (過去形) be 動詞 (過去形) 過去進行形 未来形	中学校第 1 学年用教科書 及び 中学校第 2 学年用教科書
中 2	1 3 5	受動態 現在完了	中学校第 2 学年用教科書 及び 中学校第 3 学年用教科書

(4) 計画初年度 (平成 2 0 年度) に早期給与を受ける児童生徒数及び早期給与する教科書の種類・冊数の見込み

学年	児童生徒数	早期給与する教科書の種類	冊数	備考 (早期給与校)
小 6	2 6	中学校第 1 学年用 英語	2 6	奈留小学校

(5) 平成 2 1 年度に早期給与を受ける児童生徒数及び早期給与する教科書の種類・冊数の見込み

学年	児童生徒数	早期給与する教科書の種類	冊数	備考 (早期給与校)
小 6	1 9	中学校第 1 学年用 英語	1 9	奈留小学校
中 1	2 6	中学校第 2 学年用 英語	2 6	奈留中学校

(6) 平成 2 2 年度に早期給与を受ける児童生徒数及び早期給与する教科書の種類・冊数の見込み

学年	児童生徒数	早期給与する教科書の種類	冊数	備考 (早期給与校)
小 6	2 6	中学校第 1 学年用 英語	2 6	奈留小学校
中 1	1 9	中学校第 2 学年用 英語	1 9	奈留中学校
中 2	2 6	中学校第 3 学年用 英語	2 6	奈留中学校